

●総 評

第2回となる今年度の表彰においては、県内各地から24施設の応募があり、学識経験者、岡山県のUDアドバイザー、バリアフリーアドバイザー、建築士の他に使用者の代表の方など様々な立場の人達で構成された審査委員による本審査（書類審査と現地調査）と一般県民による公開審査（投票）を行いました。

本審査の一次審査では、書類審査により各審査委員の視点で現地調査を行う施設を7箇所選びました。いずれも利用者の立場に立った独自の創意工夫を凝らしたUDに配慮された施設でした。

二次審査として現地調査を行った後、審査委員会で審議を行い、入賞作品を決定しました。現地調査では想像以上にUDに配慮されていた施設もあり、審査委員一同、所有者や設計者、施工者のUDに対する熱意を感じさせられました。審査委員会では、各審査委員が現地調査の際に良いと思った点や気づいた点を出し合い、最も高レベルにUDに配慮された施設を議論した結果、最優秀賞1点、優秀賞2点を入賞作品の対象として選出しました。

優秀賞（県民賞）は、現地調査により内容を確認した上で、県内3箇所で行われた県民による公開審査（投票）の得票数を元に決定しました。

今回応募いただいた施設はいずれも特徴のある取組がされており、特にサイン関係において、わかりやすくセンスの良いまとめ方をされている施設が多かった中、受賞されなかった作品にも、優れた取組がなされている施設が数多くあったことを付記します。

受賞された施設、また、残念ながら受賞に至らなかった施設の所有者、設計者や施工者の方々に対しまして、UDは、すべての人のことを考えて継続的に改善していく終わりのない取組でありますことから、引き続きこのような素晴らしい取組や改善（スパイラルアップ）を進めていただくことを望みます。

また、本コンテストが今後も継続され、UD化された優秀な作品が数多く応募され、評価されることで、岡山県のUDまちづくりが進展することを望みます。

〈審査委員一同〉